

教育目標		『すべての子どもを幸せに』～自尊感情を高め、自立してたくましく生きる児童の育成～						
重点目標		・「生きる力」を育み未来への道を切り拓く力の育成(生涯にわたる可能性とチャンスを最大化) ・子どもたちの学びを支える環境の充実						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	・「めあてを提示し、ふりかえり理解を確認しながら授業を進める。 ・宿題や課題を最後までやせるように支援をする。 ・地域、保護者と連携した土曜寺子屋教室を実施する。	・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすく楽しい」が90%以上になる。 ・課題の提出率が90%以上になる。 ・朝学習を利用して算数(火曜日)国語(水曜日)に小テストを月4回実施する。 ・土曜寺子屋教室を実施し、学習習慣の定着を図る。	・児童アンケートの「授業はわかりやすく楽しい」がAが55%Bが36%で、合計が91%となった。 ・児童アンケートの「宿題は毎日忘れずにしている」がAが61%Bが31%で、合計が92%となった。 また、職員のアンケートでも90%以上であるとの回答が97%となっている。 ・朝学習においては火曜日に算数、水曜日に国語を行う習慣がついてきており、その為の小テストやプリント学習なども実施できている。 ・昨年度に比べ、多くの児童が参加することができた。	・朝学習の算数・国語・朝読書については習慣が付き、行うことができているので、今後も引き続き朝学習の時間を有効に使う工夫をする必要がある。 ・「めあて」「ふりかえり」については、実施方法を各クラスの実態に合ったやりかたで行うことができたが、『ふりかえり』の実施の仕方を確認する必要がある。 ・実施内容を工夫し、土曜寺子屋教室への参加児童を増やす。	・学力調査の結果が全国平均を上回るよう努力が必要。 ・こつこつと自分で学習できる環境を低学年の時から身につけさせることが重要。 ・自覚的に学ぶためにも「めあて」「ふりかえり」の実施は個々の発達状況に併せて継続して行っていただきたい。	
		新しい時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	・わかる授業をすることにより学習意欲を向上させ、達成感を味わわせる。 ・情報機器を活用した授業に取り組む。	・ICT機器やタブレットを活用してわかる授業を実施し、学習に対する興味・関心を喚起する。 ・子どもたちが主体的に取り組む外国語活動や英語教育充実を目指す。	・児童アンケートにおいて「先生は、教え方にいろいろ工夫している」との回答が80%以上になる。 ・ICTを利用した授業を週に1度以上行う。 ・活動を中心とした外国語活動を実施して、児童に興味・関心を持たせる。 ・各教科で効果的にタブレットを活用する。	・児童アンケートの「先生は、教え方にいろいろ工夫している」の結果がAが73%Bが24%で、合計が97%になった。 ・ICTを利用した授業を取り入れたり、学習にタブレットを取り入れたりする活動も増えてきて、今では日常に利用するようになってきている。 ・中学年の外国語活動にも様々な体験を取り入れた活動ができた。	・新しい時代に対応した教育という視点で、今後は情報機器の活用やタブレットの使用など学年ごとの目標などを設定していく必要がある。 ・子どもたちがより主体的に取り組むために計画的にカリキュラムを作成し、取り組みを進めていく。	・タブレットの利用など、楽しく学べる環境作りが行われている。 ・ICT化が進む中、今までの教育のよい点を継承しながら、「効果的な使用」を検討し、深めていくことが大切である。
		「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施	・問題行動に対する指導体制を充実させる。 ・学校教育全体を通じて道徳教育を計画的に進める。 ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 ・不登校児童への支援体制の充実	・児童を理解し、指導の徹底を図る。 ・問題行動について組織的に迅速に対応する。 ・いじめアンケート調査を年2回実施する。 ・不登校児童の情報を全職員で共有する。 ・家庭でのゲームやスマホの使用するルール作りを啓発する。	・校内研修を年に2回以上行う。 ・児童アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやりについて教えてもらっている」との回答が85%以上になる。 ・児童アンケートにおいて「学校へ行くのが楽しい」との回答が90%以上になる。 ・不登校対策委員会を年に3回以上行う。 ・ゲームやスマホの使い方のルール作りを学校通信等を通じて家庭に協力を要請する。	・生活指導、人権の研修会を年2回実施することができた。 児童アンケートの「学校で、自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて学んでいる」の結果が、Aが56%Bが36%で、合計が91%となった。 児童アンケートの「学校へ行くのが楽しい」の結果が、Aが58%Bが28%で合計が86%になった。 また、保護者アンケートでは、94%になった。 いじめアンケートを年2回実施し、問題の早期発見、対応、解決を行うことができた。 不登校対策委員会を実施することができなかったが、生活指導部会で毎月情報交換をすることができた。 ゲームやスマホの利用について発達段階に応じた指導を行うことができた。	・新しい生徒指導提言に基づき、生徒指導部会・不登校対策委員会などを中心に、きめ細かい指導を行う。 ・「学校へ行くのが楽しい」は目標の90%を達成できていないので、その原因をさぐる必要がある。そのためには、子どもより良い成長のために保護者や地域との更なる連携が必要である。 ・不登校対策委員会(生活指導部会)で話し合った内容を全職員と共通理解し、児童一人ひとりに対応できるように対応を探っていく。 ・今後もゲームやスマホの利用について指導及び家庭への啓発を進めていく。	・不登校支援については、家庭との連携が必要だと思う。学校、専門職員と市と情報共有し、子どもが望む方法で解決できるとよい。 ・生徒指導上の問題は少ない一方で、比較的落ち着いた学校の様子うかがえる。 ・不登校対策に関しては、今後も幼稚園や関係機関と共有しながら進めていくことが重要である。 ・学力重視の現在の教育環境で、人を思いやることは大事である。表面的な事象にとらわれず、掘り下げていって欲しい。
	「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	・児童の体力の向上を図る。 ・食生活に関心をもち、健康に生活しようとする児童の育成を図る。	・授業で、各学年に応じた運動プログラムを取り入れる。 ・各学年に応じた運動プログラムをより具体的に簡単な内容にし、研修等で紹介し合う。 ・業間遊びを計画的に取り入れる。 ・食育を給食の時間や授業において推進する。	・教職員アンケートにおいて「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」との回答が90%以上になる。 ・委員会活動を中心とした、業間活動を中心に1回以上行う。 ・低学年への給食指導やコロナ禍での黙食の大切さについて指導する。	・教職員アンケートの「学年に応じた運動プログラムを取り入れている」の結果が90%以上になった。 ・委員会活動を中心とした、業間活動を中心に1回以上行う。 ・低学年への給食指導やコロナ禍での黙食の大切さについて指導する。	・生活指導、人権の研修会を年2回実施することができた。 児童アンケートの「学校で、自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて学んでいる」の結果が、Aが56%Bが36%で、合計が91%となった。 児童アンケートの「学校へ行くのが楽しい」の結果が、Aが58%Bが28%で合計が86%になった。 また、保護者アンケートでは、94%になった。 いじめアンケートを年2回実施し、問題の早期発見、対応、解決を行うことができた。 不登校対策委員会を実施することができなかったが、生活指導部会で毎月情報交換をすることができた。 ゲームやスマホの利用について発達段階に応じた指導を行うことができた。	・新年度については、様々な方面からより良い実施方法を検討し実施できるようにする。 ・体力向上のため授業の改善を進めていく。 ・栄養教諭と連携し、授業で食育や栄養について取り扱ったり、給食センターからの献立に関するプリントを使用したりして家庭に発信するなど、より食に関する関心を深めていく。 ・食育の学習を学年に応じて進める。	・コロナ禍で制限があったと思う。今後、体力面の回復を目指して欲しい。 ・黙食の制限緩和となるので、学校給食の場面でも楽しくしっかり食べることで食育が深まるといえる。 ・組対抗、班対抗として、長縄、ドッジボールなどを行うことで協力が生まれるのではないかと。 ・食を含めて体づくりは低年齢から重要視しているため、幼小の中でもしっかり連携していきたい。 ・食育を家庭にまで浸透させるのは大変だが根気強く続けてほしい。
	教育相談・支援体制の充実 ①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実	・児童の実態を把握し、関連機関との連携を密にする。	・キャリアパスポートを実施する。 ・SC・SSWを活用して支援体制を整える。 ・関係機関と密に連絡を取り相談する。	・年に2回キャリアパスポートの記入を実施する。 ・支援を必要とする児童の把握と関係機関への支援体制を整える。	・学期ごとにキャリアパスポートの記入をし、次学年にその結果を引き継ぐことができた。 ・問題行動や相談内容を確認するとともに、SCやSSWと連携を取り支援体制を整えることができた。	・キャリア教育については、「キャリアパスポートの記入」を行っているが、それ以外の指導については各クラスに任せている状態なので、学校としての取り組みを検討する必要がある。 ・今後も様々な機関と連携を取って、児童の指導につなげていく。	・これからも各関係機関との連携を大切にしたい。 ・きょうだい関係で家庭支援が必要な場合は幼小で情報共有し対応していきたい。 ・ほんの小さなことでも子どもたちにとっては大きな悩みになっていることもある。常識にとらわれず取り組んでほしい。	
	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実	・個に応じた支援計画を立てきめ細かな指導及び支援を行う。	・必要に応じてサポートファイルを作成し、子に応じた支援に活かす。 ・必要に応じてケース会議をもち適切な対応や支援をする。	・ケース会議を随時、校内委員会を月1回行いニーズに応じて組織的な支援体制を構築する。 ・校内研修を年に2回以上行う。	・月に1回校内委員会を行い、各学年の児童の実態について情報交換することができた。 ・必要に応じて、ケース会議や教育支援委員会などを行い、児童の実態把握や今後の対応について話し合うことができた。 ・サポートファイルの作成を行い、学期ごとの個別の計画や成果を記録した。 ・校内研修で年に2回全職員で研修会を持つことができた。	・月に1回の校内委員会に加えて、必要に応じてのケース会議や全体研修などを今後も続けて行く。 ・必要に応じて、教育相談・巡回相談など関係機関と連携を取りながら児童の発達について適切なアドバイスを受けるようにする。	・児童の実態について情報交換することは大事で、これからも重視して欲しい。 ・支援が必要な児童が増加しているため、職員の増員が必要。研修を重ねて、様々な児童へ対応できる職員を育成して欲しい。 ・支援に関する情報をサポートファイル等を活用しながら共有していきたい。	
	教職員の資質向上 ①研修等の充実	・授業力の向上と授業改善をめざして校内研修会を実施する。	・校内研修として、すべての教員が年1回以上授業公開する。 ・他校の研究会に一人一回以上参加できる体制を整える。	・すべての教員が年1回以上授業公開する。 ・他校の研究会に一人一回以上参加する。	・市内研究発表会を実施することができた。 ・すべての教員が年1回以上の授業公開を行うことができた。(市内研究発表会の事前授業を含む) ・他校の研究発表会に一人一回以上参加する機会が持てた。	・積極的に授業公開をし、他校の研究発表会に参加できるようにする。 ・夏季研修会を効果的に行うようにすることを望む。 ・「架け橋プログラム」をどう進めるかなど、幼小接続について学びたい。 ・教育のプロとして自覚を持って自己啓発を続けて欲しい。	・今年度の研究発表会は参加者も多く、授業に工夫が見られた。 ・教員の学びが子どもたちへとつながることを望む。 ・「架け橋プログラム」をどう進めるかなど、幼小接続について学びたい。 ・教育のプロとして自覚を持って自己啓発を続けて欲しい。	
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	・積極的に学校情報を発信する。 ・学校運営協議会の活動を充実させる。	・学校だよりを発行し、地域にも配布する。 ・ホームページにより学校の情報を積極的に発信する。 ・学校運営協議会と連携し、教育活動を進める。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・ホームページを月1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて「学校は、保護者の願いに答えている」との回答が90%以上になる。 ・学校運営協議会委員と職員との交流の場を設け、課題解決に努める。	・学校だよりは月に1回発行できた。 ・ホームページで機会あるごとに学校の様子を知らせることができた。 ・保護者アンケートの「学校は、学校・学年だよりやホームページなどを通して学校情報を発信している」の結果がAが63%Bが34%で、合計が97%の結果になっている。 ・保護者アンケートの「学校は保護者の願いに答えている」の結果がAが32%Bが59%で、合計が91%となっている。 ・学校運営協議会委員と職員との交流の場を設けることで、九九学習、昔のくらし等において取り組みを進めることができた。	・これからも積極的に学校の情報を発信していく。 ・学校だよりや学年通信、ホームページで学校生活の様子を知らせていくようにする。 ・メールを利用した情報発信や、グループを使用したアンケートの集約などを確実にしていく方法を考察する。 ・今後も学校運営協議会及び家庭・地域との連携を図っていく。	・コロナ禍の中、コミュニティスクールの活動が十分にできなかったのは残念。九九検定の協力はできたと思う。 ・今後地域との関わりをオープンにし、学校、保護者、地域が一つとなって欲しいと思う。 ・グループクラスルームの活用促進と定着を図っていく必要がある。 ・下校して帰ってくる子どもに「お帰り」と声をかけるとニコニコ微笑んでくれる。	
	安全・安心な教育環境の充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進	・避難訓練や安全教育を計画的に実施する。 ・教育環境の整備を行う。	・火災、地震の避難訓練と不審者対応の訓練を行う。 ・安全点検を行い、校内の危険場所の把握と整備を行う。 ・働き方改革を推進し、子どもとゆとりをもってむきあう時間を作る。	・保護者アンケートにおいて「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」との回答が90%以上になる。 ・安全点検を月に1回行う。 ・週に1回の定時退勤日及び月に1回以上のノー会議デーを実施する。	・保護者アンケートの「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」の結果がAが52%Bが45%で、合計が97%となっている。 ・火災、地震、水害、不審者対応など避難訓練を実施することができた。 ・夏季研修では、不審者対応の研修を行うことができた。 ・月に1度の安全点検を行った。 ・週に1回の定時退勤日及び月に1回以上のノー会議デーを実施することができた。	・今後も防災教育に力を入れて、より安全に学校生活がおくれるように実施していく。 ・働き方改革は大切で、必要なもの、改革できるものを見極めていけるとよい。 ・働き方改革について職員全員で考えていく必要がある。	・砂場などの不備や危険な箇所は点検できていて、対応もできていると思う。 ・働き方改革は大切で、必要なもの、改革できるものを見極めていけるとよい。 ・改革することで、子どもたちへの時間が増える方向で考えて欲しい。 ・危険な通学路も見られる。また、ハザードマップでは、池尻小も浸水区域になっている。水害が発生した場合の対応の再検討が必要。	

学校関係者評価総括
 ・中学校とも協力し、学力向上を目指すことが大きな課題である。
 ・努力している児童を大いに褒め、自信をつけさせることが必要である。
 ・全体として満足できる状況だと思う。
 ・「新しい時代の教育」「豊かな心の育成」をしっかり進めていただけると親として安心。学校だけでは大変なことも多いので、保護者として、地域の一人としてお手伝いできることが何かを考えていきたい。「地域で子どもを育てる」ということをどんどん発信できればよい。低学年時代からしっかり自分で学習していける「しかけ」を考えていきたい。
 ・成果と課題において、各項目の達成率が大半90%以上で、達成目標率も概ねクリアしていてよかったと思う。

次年度に向けた重点的な改善点
 ・不登校の児童へのよりよい支援体制の充実
 ・タブレット等情報機器の効果的な活用
 ・計画的な家庭学習の推進
 ・読書活動の推進